

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	病理検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年 土曜1~4限	教室名	801,802,6F実習室
担 当 教 員	増田一吉、藤田幸久	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>病理検査は患者から採取された組織から病理標本を作製し、診断に必要な所見を提供する重要な検査である。病院の病理検査室で実際に行われている病理検査の基本について実習・講義を行う。病理検査に関する基本的知識や手技に加え、顕微鏡を用いてミクロ構造を理解し、病的異常の変化について考える応用力を習得を目標とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>前期テスト・後期テストに加えて必要に応じて小テストや実習時のレポート点も加味する。増田:成績評価は小テストを含む本試験80%、レポート点20%とする。藤田:前回講義の2コマ1回小テストを行う。また、実習中のスケッチは提出し、小テストの合格点数を20%かつスケッチの提出を20%、期末テストの点数を60%とする。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>臨床検査学講座 病理学/病理検査学、病理検査技術教本、染色法のすべて、配布PP資料 授業中にタブレット等の電子機器を用いて、フルカラーの資料を確認してもよい。顕微鏡を使った標本鏡検実習を行うので色鉛筆を持参すること。</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>臨床検査講座(通称赤本)の病理学を予習復習に用いること。病理検査学の基礎として解剖組織学、病理組織学の基礎知識が必要なので、授業前の予習は必修。実習レポートは必ず提出すること。毎回授業の最初に、前回授業内容に係わる小テストを実施するので復習しておく。実際の染色標本を鏡検して各染色の組織構造と細胞の色調を認識できるようにすること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>病理検査学には、病理学、病理検査学、解剖組織学分野に加えて、臨床検査医学総論、細菌学、医動物学等全ての分野と関連している。教科書や配布資料を熟読し、顕微鏡実習による貴重な標本を見て患者の病気を理解すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理検査学の一連の流れ及び、病理解剖学の基礎が理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	病理検査学総論及び病理解剖の実際について講義する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理検査学の一連の流れ及び、病理解剖学の基礎が理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	病理検査学総論及び病理解剖の実際について講義する。			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	良好なパラフィンブロック標本作製し、精度良くスムーズに薄切できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	病理組織標本作製の実際について組織材料を用いて実習講義する。			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	良好なパラフィンブロック標本作製し、精度良くスムーズに薄切できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	病理組織標本作製の実際について組織材料を用いて実習講義する。			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	組織切片の脱パラフィン・HE染色・封入操作の目的、意義について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	薄切切片の脱パラフィン・HE染色・封入について実習講義を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	組織切片の脱パラフィン・HE染色・封入操作の目的、意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	薄切切片の脱パラフィン・HE染色・封入について実習講義を行う。		
第7回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な結合組織染色法についてその目的、意義が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	結合組織の染色法(アザン染色・エラスチカ・ワンギーソン染色・PTAH染色)について実習講義を行う。		
第8回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な結合組織染色法についてその目的、意義が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	結合組織の染色法(アザン染色・エラスチカ・ワンギーソン染色・PTAH染色)について実習講義を行う。		
第9回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	種々の好銀染色の目的・意義が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	銀染色(渡辺銀・PAM染色)について実習講義する。		
第10回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	種々の好銀染色の目的・意義が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	銀染色(渡辺銀・PAM染色)について実習講義する。		
第11回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	粘液染色及びアミロイド染色の目的・意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	粘液染色(PAS・アルシアン青染色)及びアミロイド染色(コンゴ赤染色)について実習講義する。		
第12回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	粘液染色及びアミロイド染色の目的・意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	粘液染色(PAS・アルシアン青染色)及びアミロイド染色(コンゴ赤染色)について実習講義する。		
第13回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	無機物染色と生体内色素の目的・意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	無機物染色(鉄染色・コッサ染色)、生体内色素染色(フォンタナ・マッソン染色)について実習講義する。		
第14回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	無機物染色と生体内色素の目的・意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	無機物染色(鉄染色・コッサ染色)、生体内色素染色(フォンタナ・マッソン染色)について実習講義する。		
第15回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	病原体染色の目的・意義について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	病原体染色(チールネルゼン染色、オルセイン染色、グロコット染色)について実習講義を行う。		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	病理検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年 土曜1～4限	教室名	801,802,6F実習室
担 当 教 員	増田一吉、藤田幸久	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>病理検査は患者から採取された組織から病理標本を作製し、診断に必要な所見を提供する重要な検査である。病院の病理検査室で実際に行われている病理検査の基本について実習・講義を行う。病理検査に関する基本的知識や手技に加え、顕微鏡を用いてミクロ構造を理解し、病的異常の変化について考える応用力を習得を目標とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>前期テスト・後期テストに加えて必要に応じて小テストや実習時のレポート点も加味する。増田:成績評価は小テストを含む本試験80%、レポート点20%とする。藤田:前回講義の2コマ1回小テストを行う。また、実習中のスケッチは提出し、小テストの合格点数を20%かつスケッチの提出を20%、期末テストの点数を60%とする。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>臨床検査学講座 病理学/病理検査学、病理検査技術教本、染色法のすべて、配布PP資料 授業中にタブレット等の電子機器を用いて、フルカラーの資料を確認してもよい。顕微鏡を使った標本鏡検実習を行うので色鉛筆を持参すること。</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>臨床検査講座(通称赤本)の病理学を予習復習に用いること。病理検査学の基礎として解剖組織学、病理組織学の基礎知識が必要なので、授業前の予習は必修。実習レポートは必ず提出すること。毎回授業の最初に、前回授業内容に係わる小テストを実施するので復習しておく。実際の染色標本を鏡検して各染色の組織構造と細胞の色調を認識できるようにすること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>病理検査学には、病理学、病理検査学、解剖組織学分野に加えて、臨床検査医学総論、細菌学、医動物学等全ての分野と関連している。教科書や配布資料を熟読し、顕微鏡実習による貴重な標本を見て患者の病気を理解すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	病原体染色の目的・意義について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	病原体染色(チールネルゼン染色、オルセイン染色、グロコット染色)について実習講義を行う。			
第17回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	従来の内分泌染色法と新しい酵素抗体法の目的・意義について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	内分泌染色(グリメリウス染色・酵素抗体法)について両者を比較しながら実習講義を行う。			
第18回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	従来の内分泌染色法と新しい酵素抗体法の目的・意義について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	内分泌染色(グリメリウス染色・酵素抗体法)について両者を比較しながら実習講義を行う。			
第19回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	前期のまとめ(主要臓器の組織画像、顕微鏡画像が理解できるようになる。)	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめについて、PP資料を用いて説明する。			
第20回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	前期のまとめ(主要臓器の組織画像、顕微鏡画像が理解できるようになる。)	病理学/病理検査学、配布PP資料		事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめについて、PP資料を用いて説明する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	食道・胃を中心とした消化管の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。①	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	食道・胃を中心とした消化管の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。①		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	食道・胃を中心とした消化管の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。②	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	食道・胃を中心とした消化管の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。② かつ、上記の標本によるスケッチを行う。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝臓・膵臓を中心とした消化の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。①	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	肝臓・膵臓を中心とした消化管の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。①		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	肝臓・膵臓を中心とした消化の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。②	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	肝臓・膵臓を中心とした消化管の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。② かつ、上記の標本によるスケッチを行う。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系と縦隔の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。①	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器系と縦隔の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。①		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系と縦隔の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。②	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器系と縦隔の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。② かつ、上記の標本によるスケッチを行う。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系・生殖器・乳腺の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。①	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	泌尿器系・生殖器・乳腺の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。①		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系・生殖器・乳腺の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。②	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	泌尿器系・生殖器・乳腺の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。② かつ、上記の標本によるスケッチを行う。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌・循環器臓器の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。①	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	内分泌・循環器臓器の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。①		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	内分泌・循環器臓器の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。②	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
		各コマにおける授業予定	内分泌・循環器臓器の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について講義する。② かつ、上記の標本によるスケッチを行う。		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	病理検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年 土曜1~4限	教室名	801,802,6F実習室
担 当 教 員	増田一吉、藤田幸久	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>病理検査は患者から採取された組織から病理標本を作製し、診断に必要な所見を提供する重要な検査である。病院の病理検査室で実際に行われている病理検査の基本について実習・講義を行う。病理検査に関する基本的知識や手技に加え、顕微鏡を用いてミクロ構造を理解し、病的異常の変化について考える応用力を習得を目標とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>前期テスト・後期テストに加えて必要に応じて小テストや実習時のレポート点も加味する。増田:成績評価は小テストを含む本試験80%、レポート点20%とする。藤田:前回講義の2コマ1回小テストを行う。また、実習中のスケッチは提出し、小テストの合格点数を20%かつスケッチの提出を20%、期末テストの点数を60%とする。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>臨床検査学講座 病理学/病理検査学、病理検査技術教本、染色法のすべて、配布PP資料 授業中にタブレット等の電子機器を用いて、フルカラーの資料を確認してもよい。顕微鏡を使った標本鏡検実習を行うので色鉛筆を持参すること。</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>臨床検査講座(通称赤本)の病理学を予習復習に用いること。病理検査学の基礎として解剖組織学、病理組織学の基礎知識が必要なので、授業前の予習は必修。実習レポートは必ず提出すること。毎回授業の最初に、前回授業内容に係わる小テストを実施するので復習しておく。実際の染色標本を鏡検して各染色の組織構造と細胞の色調を認識できるようにすること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>病理検査学には、病理学、病理検査学、解剖組織学分野に加えて、臨床検査医学総論、細菌学、医動物学等全ての分野と関連している。教科書や配布資料を熟読し、顕微鏡実習による貴重な標本を見て患者の病気を理解すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第31回	講義を通じての到達目標	種々の神経染色の目的・意義について理解できる。		病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
	各コマにおける授業予定	神経染色(クリューバ・バレラ染色。ボディアン染色)の実習講義を行う。				
第32回	講義を通じての到達目標	種々の神経染色の目的・意義について理解できる。		病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
	各コマにおける授業予定	神経染色(クリューバ・バレラ染色。ボディアン染色)の実習講義を行う。				
第33回	講義を通じての到達目標	脂肪染色の目的・意義について理解できるようになる。		病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
	各コマにおける授業予定	脂肪染色法(ズダンⅢ、ナイル青染色)の実習講義を行う。				
第34回	講義を通じての到達目標	脂肪染色の目的・意義について理解できるようになる。		病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
	各コマにおける授業予定	脂肪染色法(ズダンⅢ、ナイル青染色)の実習講義を行う。				
第35回	講義を通じての到達目標	コンパニオン診断、分子診断診断技術、電子顕微鏡標本作製法について理解できるようになる。		病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
	各コマにおける授業予定	コンパニオン診断薬の代表的なHER2検査法、ISH法、FISH法、走査型顕微鏡技術、透過型電子顕微鏡技術について講義する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第36回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	コンパニオン診断、分子診断診断技術、電子顕微鏡標本作製法について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	コンパニオン診断薬の代表的なHER2検査法、ISH法、FISH法、走査型顕微鏡技術、透過型電子顕微鏡技術について講義する。		
第37回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	細胞診に必要な解剖学、病理学の基礎を理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	細胞診断学概論についてPPスライド講義を行う。		
第38回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	細胞診に必要な解剖学、病理学の基礎を理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	細胞診断学概論についてPPスライド講義を行う。		
第39回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	細胞診検査の標本作製、染色法について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	喀痰、尿、体腔液を用いて標本作製しパピニコロウ染色を行う。		
第40回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	細胞診検査の標本作製、染色法について理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	喀痰、尿、体腔液を用いて標本作製しパピニコロウ染色を行う。		
第41回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	婦人科細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	婦人科細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。		
第42回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	婦人科細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	婦人科細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。		
第43回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	呼吸器細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	呼吸器細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。		
第44回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	呼吸器細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	呼吸器細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。		
第45回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	泌尿器、体腔液細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学／病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。
		各コマに おける 授業予定	泌尿器、体腔液細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	病理検査学1		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年 土曜1~4限	教室名	801,802,6F実習室
担 当 教 員	増田一吉、藤田幸久	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>病理検査は患者から採取された組織から病理標本を作製し、診断に必要な所見を提供する重要な検査である。病院の病理検査室で実際に行われている病理検査の基本について実習・講義を行う。病理検査に関する基本的知識や手技に加え、顕微鏡を用いてミクロ構造を理解し、病的異常の変化について考える応用力を習得を目標とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>前期テスト・後期テストに加えて必要に応じて小テストや実習時のレポート点も加味する。増田：成績評価は小テストを含む本試験80%、レポート点20%とする。藤田：前回講義の2コマ1回小テストを行う。また、実習中のスケッチは提出し、小テストの合格点数を20%かつスケッチの提出を20%、期末テストの点数を60%とする。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>臨床検査学講座 病理学/病理検査学、病理検査技術教本、染色法のすべて、配布PP資料 授業中にタブレット等の電子機器を用いて、フルカラーの資料を確認してもよい。顕微鏡を使った標本鏡検実習を行うので色鉛筆を持参すること。</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>臨床検査講座(通称赤本)の病理学を予習復習に用いること。病理検査学の基礎として解剖組織学、病理組織学の基礎知識が必要なので、授業前の予習は必修。実習レポートは必ず提出すること。毎回授業の最初に、前回授業内容に係わる小テストを実施するので復習しておく。実際の染色標本を鏡検して各染色の組織構造と細胞の色調を認識できるようにすること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>病理検査学には、病理学、病理検査学、解剖組織学分野に加えて、臨床検査医学総論、細菌学、医動物学等全ての分野と関連している。教科書や配布資料を熟読し、顕微鏡実習による貴重な標本を見て患者の病気を理解すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第46回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器、体腔液細胞診のガラス標本を顕微鏡でスクリーニングし正常像、境界病変、悪性病変が理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
		各コマにおける授業予定	泌尿器、体腔液細胞診のガラス標本を顕微鏡で正常像、境界病変、悪性病変をスクリーニングし、その細胞像について説明する。			
第47回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	消化器、乳腺、その他の細胞診について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
		各コマにおける授業予定	PPを用いて消化器、乳腺、その他の細胞診の鏡検実習を行う。			
第48回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	消化器、乳腺、その他の細胞診について理解できるようになる。	病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
		各コマにおける授業予定	PPを用いて消化器、乳腺、その他の細胞診の鏡検実習を行う。			
第49回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理検査学まとめ(主要臓器の組織画像、顕微鏡画像が理解できるようになる。)	病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
		各コマにおける授業予定	主要臓器の組織の顕微鏡画像、細胞画像をPPにて説明する。			
第50回	講義形式	授業を通じての到達目標	病理検査学まとめ(主要臓器の組織画像、顕微鏡画像が理解できるようになる。)	病理学/病理検査学、配布PP資料	事前に赤本・PP資料を読んで、実習内容を予習して下さい。	
		各コマにおける授業予定	主要臓器の組織の顕微鏡画像、細胞画像をPPにて説明する。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標 脳神経系の役割と構造・病的変化を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	脳神経系の解剖・病理の学習とそのマイクロ構造について理解し、一般・特殊染色を理解する。		
第52回	実習形式	授業を通じての到達目標 脳神経系の構造をHE染色や特殊染色をスケッチすることにより色素やその色合い、染まる組織構造・細胞が理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	脳神経のHE染色や特殊染色をスケッチする。		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標 免疫組織化学染色と膠原線維、弾性線維および細網線維の染色法を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	免疫組織化学染色と膠原線維、弾性線維および細網線維の染色法の復習講義		
第54回	実習形式	授業を通じての到達目標 免疫組織化学染色と膠原線維、弾性線維および細網線維の染色法について色素やその色合い、染まる組織構造・細胞が理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	免疫組織化学染色と膠原線維、弾性線維および細網線維の染色法をスケッチする。		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標 電子顕微鏡技術と粘液や感染の検出に関する特殊染色を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	電子顕微鏡技術と粘液や感染の検出に関する特殊染色を整理する。		
第56回	実習形式	授業を通じての到達目標 粘液や感染の検出に関する特殊染色について色素やその色合い、染まる組織構造・細胞や病原体が理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	粘液や感染の検出に関する特殊染色について色素やその色合い、染まる組織構造・細胞や病原体に関する特殊染色をスケッチする。		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標 細胞診検査について理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	細胞診で行われる手技や染色、各種検体に出現する正常細胞と異常細胞を講義する。		
第58回	実習形式	授業を通じての到達目標 細胞診の染色と各種細胞を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	呼吸器・胸水の細胞診標本を鏡検しスケッチを行う。		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標 病理検査が総合的に理解でき、脂肪やRNA、無機物、細胞内顆粒に関する特殊染色を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	病理検査学の総まとめと粘液や脂肪やRNA、無機物、細胞内顆粒に関する特殊染色を整理する。		
第60回	実習形式	授業を通じての到達目標 脂肪やRNA、無機物、細胞内顆粒に関する特殊染色を理解できるようになる。	赤本病理組織検査学・配布資料	小テスト実施による復習
	各コマにおける授業予定	脂肪やRNA、無機物、細胞内顆粒に関する特殊染色を鏡検しスケッチを行う。		